

おだわら環境志民ネットワーク会報誌

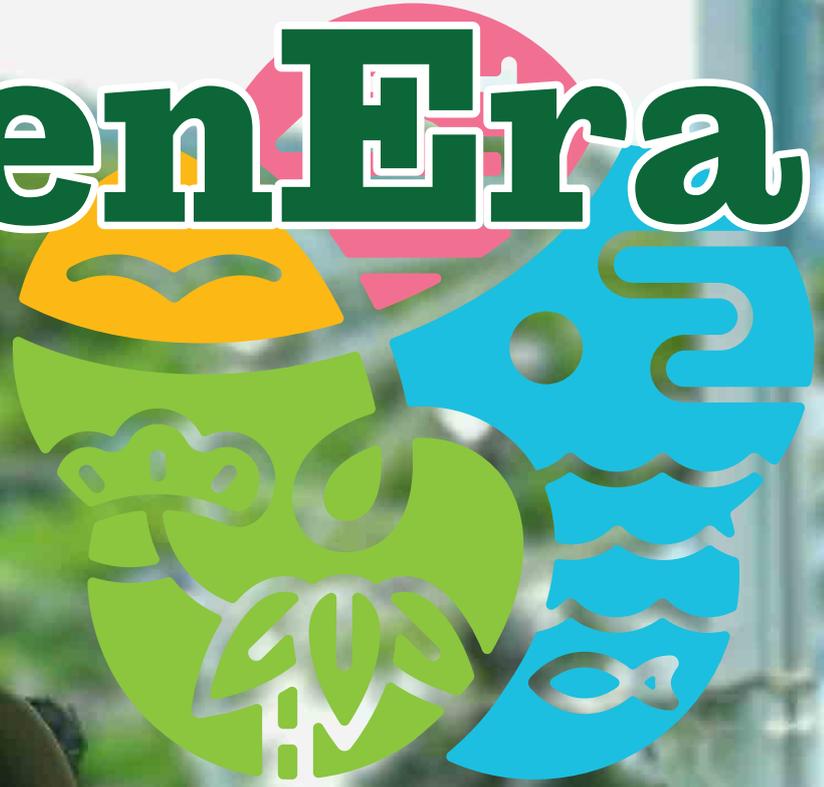
GreenEra

7 & 8

2023
Odawara
Environmental
Citizen's
Network

Vol.27

TEKE FREE



■ハーブ畑で香りの作業体験

表紙：西川 恭子さん

(おひるね生(いき)ごみハーブ畑 代表)

■7月の田植え体験

■令和5年度くくり畠塾

■竹林整備活動

■第2回おだわらグリーンマルシェ

■竹ぽっくり作りと竹切り体験

■LOCALFOODMARKETおだわら

■第1回フィールドワーク

■みんなでSDGsを学ぼう

■サマーナイトフェスタ in ザ・プリンス箱根芦ノ湖



おひるね生(いき)ごみハーブ畑 ハーブ畑で香りの作業体験

7月19日(水)

小田原生(いき)ごみクラブのイベント「生(いき)ごみサロン」のなかで、おひるね生(いき)ごみハーブ畑の取り組みが紹介されました。ハーブ畑で使っている生ごみ堆肥を見学しながら、堆肥を作るコンポストの紹介では段ボール以外にも発泡スチロールやプラケースなど様々な物が活用できて家庭で取り組めるという話に参加者の方々は耳を傾けていました。中には既にコンポストに取り組んでいるという方もいて実際に経験した感想なども会話を盛り上げていました。この日はハーブの摘み取りも体験出来る流れになっていて、日本薄荷、アップルミント、ラベンダーほかいろいろな種類のハーブを好きなだけ摘んで持ち帰れたので、参加者の皆さんカバンいっぱいハーブを摘んでいました。暑すぎるくらいの天候でしたが、汗を流しながらもハーブのいい香りに包まれながら笑顔で作業されていました。そのあとは事前に収穫したハーブを乾燥させてから作った自家製のハーブティーで喉を潤しました。ミント系のお茶はとてもしっかりとした飲み口で清涼感が長く残るので夏の飲み物にはとてもよいと評判でした。他にもハーブから抽出したエッセンシャルオイルを使ったアロマスプレー作りも体験でき香りを各々お持ち帰りしました。



▲イベントに参加された方々と一緒に記念撮影



▲畑で収穫した薄荷のハーブティーを楽しむ皆さん

現在、ハーブ畑では日本薄荷が3年目、ラベンダーが2年目で作付面積の主なところを占め、他にも農作物エリアなどを設けられています。もともと耕作放棄地を利活用しながら取り組まれている皆さんですが、出来るだけ耕作放棄地を減らしたいという思いから、今年は今までより更に借り受ける土地を増やされました。日々手入れ作業はとても大変ですが、その甲斐あって収穫量は倍以上。これまではワークショップ等で使い切っていたラベンダーも新たにエッセンシャルオイルが作れるまでになり新商品「おひるねラベンダー」として小田原産の香りが増えることになりました。作業にあたっては、おだわら環境志民ネットワークの環境保全活動支援事業の交付金も活用していただき、農機具や保管用物置など作業の負担を軽減し効率的に取り組めるようになったとお声を寄せていただいています。今後も様々なところでワークショップイベントや商品の販売など活動がより盛んになっていきますので、ぜひ自然そのままの香りをお楽しみください。



▲日々畑作業をするメンバーの皆さん



▲作付面積を増やしたラベンダー

合同会社 小田原かなごてファーム 7月の田植え体験

7月1日(土)

田植えというと小田原ではほとんどの農家さんが6月中には遅くとも終わらせると思いますが、どうしても都合が悪くて、でも田植えを経験したいという方の声に応える形で田植え体験イベントが開催されました。裸足になって畑に入り、手作業で1つ1つ苗を植える体験のほか、機械を使った田植え体験まで自由度の高い田植えイベントでした。泥んこになることを怯えていた子どもたちもすぐに笑顔で走り回り、農家の大変さを感じながら楽しんでいました。



▲田植えの様子



▲田植え後に参加者で記念撮影



▲田植え機を操作する小山田代表とサポートする中嶋さん

NPO法人 おだわらイノシカネット 令和5年度くり畷塾

7月2日(日)

今年度もくり畷塾が開講し20名を超える第4期生が開講式に参加しました。初日のこの日は、小田原の自然がどのようなになっているか、獣害対策としてどのような取り組みが行われているか、塾を卒業したOBの方々の話を交えながら学びました。午後からは実際の猟場に赴き、罠に掛かっている生きた鹿を自分たちの手で最後まで処理するといういきなりフルコースで大変な1日となりましたが、今後の活動へのモチベーションは最高潮でした。



▲開講式の様子



▲捕獲した鹿を観察する塾生たち



▲狩猟の現場で指導する穂田代表



▲御幸の浜で小田原の自然を語る志村さん



▲志村屋米穀店を見学するジェームズさんたち

前回号で志村成則さんにアメリカの記者ジェームズさんが密着取材しているとご紹介しました。田植えの体験からも日を置いては小田原を尋ねられていて、畑の様子のほか、志村さんのお店の見学や小田原の自然環境について興味津々でいろいろな場所でたくさん写真を取られているようです。ジェームズさんの記事は今後SNSを中心に発信される予定です。



▲作業に参加した皆さん



▲急斜面にある荒廃竹林（片浦小学校裏）

赤松 大介さん(TAKEBIYORI)

竹林整備活動

7月14日(金)

予てから調整を重ねていた片浦小学校裏の山を荒らしていた竹林の整備作業に手を付けることができました。これまでは学校の先生たちが地道に対応してこられました竹の生長スピードが圧倒的に早く、今にも学校の体育館に倒れてきそうな枯れた竹も多くありましたが、赤松さんの声掛けで星槎高校の職員さんも駆けつけ隠れてしまっていた地面が少しずつ顔を出してきました。今回は緊急性が高かったため夏の暑い時期にも関わらず作業になりましたが、子どもたちの安全のため大汗を流しながら取り組まれました。

おだわら環境志民ネットワーク 第2回おだわらグリーンマルシェ

【次回開催予定】
第3回おだわらグリーンマルシェ
2023年12月17日(日)
@HaRuNe小田原うめまる広場



▲マルシェの様子



▲マルシェの様子



▲開会あいさつ

7月16日(日)

昨年12月の開催に引き続き、おだわら環境志民ネットワークのつながる事業としてマルシェイベントを開催しました。今回は会員外からも湘南オーガニックファーマーズマーケットさんに出展をお願いしたほか、飲食ブースとしてキッチンカーや地元のお店にもご協力をお願いして開催となりました。炎天下と突風という相変わらず自然との闘いはありましたが、200名以上の来場があり、前回よりも賑やかに開催することが出来ましたと思います。次回第3回おだわらグリーンマルシェの開催は会場を移して小田原駅の地下「ハルネ小田原うめまる広場」にて12月17日(日)に予定しています。物販のほかワークショップなど体験型のマルシェを考えていますので、ぜひ今のうちからご予約を空けていただけると幸いです。



▲マルシェの様子



▲マルシェの様子



▲マルシェの様子



▲荒廃竹林問題を教える福田代表



▲竹ぽっくり作りの様子

おだわら環境志民ネットワーク (出展)LOCALFOODMARKETおだわら

7月30日(日)・8月27日(日)

おだわらグリーンマルシェがご縁で繋がった湘南オーガニックファーマーズマーケットとFMおだわら株式会社が主催するマルシェイベントに毎月1回出展させていただくことになりました。おだわら環境志民ネットワークでは会員さんの取り扱う商品を集めて販売等を行ってまいります。開催日は原則毎月最終日曜日ですが、月によって変動がありますので、詳しい開催日はSNS等でご確認ください。



▲竹灯笼作りワークショップの様子



▲菖蒲畑に置かれた竹灯笼

Team MAMMA MemmA! 竹ぽっくり作りと竹切り体験

7月27日(木)

小学生を対象とした、体験しながら楽しく学ぶ環境教室に講師として登壇されました。子どもたちはなぜ小田原市で竹が厄介者として問題視されているのかを学んだあと、竹を自らノコギリで切り出し、穴を開けて竹ぽっくりをつくり活用する体験をしました。荒廃竹林の勉強はちょっと難しかったかもしれない子どもたちも、竹ぽっくり作りのときは笑顔に変わり、初めて持つノコギリやドリルに不安とワクワクを抱きながらオリジナル竹ぽっくりを作ってお満悦の様子でした。



▲イベント会場の様子



▲ブースに並ぶ商品の数々

おだわら環境志民ネットワーク 【つながる】第1回フィールドワーク

8月5日(土)

これまで30回以上開催してきた情報交換会の派生として会員さんの活動する現場に赴いて交流を図るフィールドワークが開催されました。第1回は辻村山林を辻村会長に案内していただき、人の手で森林整備が施された森と、手を加えず自然そのままの姿の森などを歩き、これまで活動されてきた会長のお話を伺いました。気温が高い日でしたが、森の中は木陰が多く吹く風に癒されながら自然に触れ合うことができました。次回第2回は平澤理事の案内で国府津方面の水を巡る旅を年明け1月に予定しています。



▲竹灯籠を作る様子



▲荒廃竹林問題を学ぶ子どもたち

おだわら竹あかりプロジェクト サマーナイトフェスタ in ザ・プリンス箱根芦ノ湖

8月2日(水)・3日(木)

芦ノ湖水上火花の開催に合わせて箱根園さんで開催されたサマーナイトフェスタに出展しました。日中は竹灯籠作りのワークショップと竹細工の販売を行いました。ワークショップは主にインバウンドの方々が物珍しそうに参加してくださいました。夜になると芦ノ湖との水際に竹灯籠を並べ、花火が始まるまでの間、来場された方々の足元を優しく照らし、癒しの空間で楽しんでいただきました。箱根園さんとは今後も折に触れてイベントで協力体制を築いていく予定ですので、他の会員の方々もお声掛けの際はご協力をお願いいたします。

おだわら竹あかりプロジェクト みんなでSDGsを学ぼう

7月31日(月)

おだわらSDGsパートナーが「先生」となり、夏休みの小・中学生を対象に、SDGsを体験できる企画に登壇しました。小学2年生から中学2年生まで幅広い子どもたち11名が参加してくれました。まずはそもそもSDGsとはなんだろう、竹あかりとSDGsにはどういった接点があるのかなどを知ってもらい、そのあとに1人1個ずつオリジナルの竹灯籠を作る体験をしました。全員初めて作る竹灯籠でしたがそれぞれ自由なデザインを考え、慣れないドリルを片手に穴を開けていきました。



▲竹灯籠作りワークショップの様子



▲竹あかりと水上花火



おだわら環境志民ネットワーク 【つながる事業】 情報交換会のご案内

【次回開催】2023年9月27日(水)18:00～

◆テーマ:竹害について

今年度の情報交換会は話題を決めて進めていく回を設けています。次回は荒廃竹林問題等に取り組まれている会員の方々の話を伺いながら、竹害というテーマに沿った情報交換を予定しています。ぜひ多くの方のご参加をお待ちしています。

(情報交換会は会員外の方も傍聴することが可能です)



▲会場の様子

-あとがき- 編集後記

(撮影・編集：奥津一樹)



夏休みをいただいた関係で、今月号は7月と8月の出来事をまとめた増刊号での発行となり、ページ数も増えています。こうして振り返ると梅雨明け前から猛暑日が続くなかで怒涛の取材だったように思います。

最近は元気に鳴いていたセミたちも落ち着き、夜は秋の虫たちが涼やかな音を奏でるようになりました。確実に季節は移ろいでいくのを感じます。

ただ、そうこうしているうちに今年も過ぎていってしまう焦燥を同時に感じてしまいますので年頭に立てた計画がキチンと進められているか今一度確認しつつ、様々なことを出来るだけ同時進行で進められればと思い、気を引き締めていきます。

今後の会員活動予定

イベント等の詳細・参加申し込み各種お問合せは各会員または事務局までお気軽に。

- ・9月16日(土) おひるね生(いき)ごみハーブ畑【ハーブ畑で香りの作業体験】
@曾比地区 7:00-9:00
- ・9月18日(月) おだわら環境志民ネットワーク(出展)【LOCALFOODMARKET おだわら】
@小田原市観光交流センターにぎわい広場 10:00-13:00
- ・9月22日(金) おだわら環境志民ネットワーク【令和5年度第2回役員会】
@小田原市役所 ※一般会員の方の傍聴が可能です。
- ・9月27日(水) おだわら環境志民ネットワーク【第32回情報交換会】
@小田原市役所またはオンライン会議システム(ZOOM) 18:00-19:00
- ・10月7日(土) おだわられもんラボ【UMECOアクティブサロン】
@おだわら市民交流センターUMECO 10:30-14:30
- ・10月8日(日) おだわら環境志民ネットワーク【令和5年度第2回役員会】
@小田原市役所 ※一般会員の方の傍聴が可能です。
- ・10月13日(金) おだわら竹あかりプロジェクト【パートナーシップ製作講座】
@小田原市生涯学習センターけやき 美術工芸室 17:00-21:00

各種SNS 日々更新中

Homepage



Facebook



Instagram



youtube



LINE





おだわら環境志民ネットワーク

Odawara Environmental Citizen's Network

(事務局)

小田原市環境部環境政策課

電話：0465-33-1472

メール：ka-kansei@city.odawara.kanagawa.jp